

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	仁摩町立仁摩小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	1	1	2	2	10	16
児童数	29	44	39	35	34	44	5	230	

研究の概要

1. 研究主題

<p>豊かな心を持ち、自ら学び考え、主体的に生きる仁摩の子の育成          - 確かな学力の定着をめざして -</p>
---

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・算数 児童の理解の状況に差がでやすい教科であり、前年度より少人数によるきめ細かな指導に取り組んでいるため。</li> <li>・3, 4, 5年・国語 1学年1クラスずつで、1クラスの児童の人数が多く、単元によって、少人数指導や、T・Tによる指導を行えば、個に応じた指導ができやすいため。</li> <li>・1, 2年・生活, ・3~6年・総合的な学習 これまで平成11年度より3年間研究実践しており、また平成13年度から今年度まで福祉教育の研究実践を進めてきているため。</li> </ul>
--

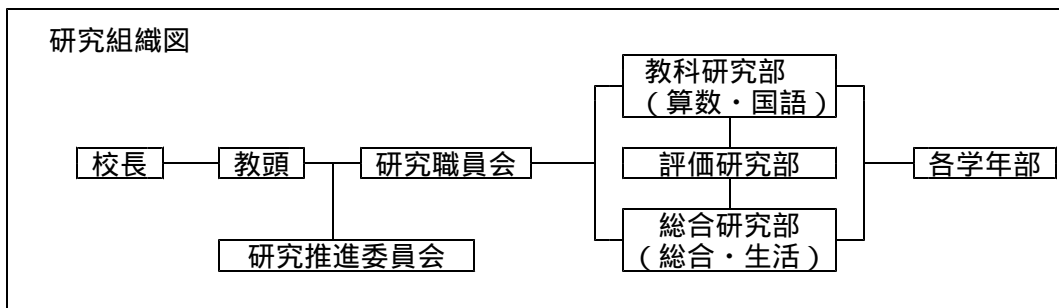
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 一人一人の確かな学力の定着をめざして (仁摩の子に育てたい心と力)</p> <p>研究の見通し(仮説) 学習活動において、「わかること・できることの楽しさを感じ、問題解決のために、主体性を生かしながら工夫し考え合う学習」の実現をめざして、教材開発、段階的指導、評価等を個別的指導の視点から工夫改善し、個に応じてきめ細かく指導していけば、個々の児童の実態に即した確かな学力(仁摩の子に育てたい心と力)が定着するであろう。</p> <p>研究の内容・方法 基盤的学習の研究推進 ・基礎学力(読み・書き・計算) ・読み聞かせの実践(朝読書) ・補充・発展の時間の活用(ぐんぐんタイム)</p> <p>教科学習(算数・国語)の研究推進 ・学力を育む単元構成(問題解決的な学習・学ぶ学習・支え合う学習) ・指導体制の工夫(時間割、TT指導・少人数指導等) ・実態に応じたきめ細かな指導(習熟度別指導等の少人数指導の工夫) ・算数的活動を高める教材の開発(個や集団の思考を促す教材開発)</p>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたち同士の学びを高め合うような指導法の工夫（個と集団）</li> <li>・評価規準を明確にした指導と評価（評価規準、具体的な評価）</li> </ul> <p>総合的な学習・生活科の研究推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁摩っ子タイム（総合）の指導内容及び指導法</li> <li>・福祉教育に関する指導（総合・生活）</li> <li>・道徳教育と他の学習との関連を図る指導</li> </ul>
--	---

平成 16 年度	<p>テーマ（15年度と同じ） 研究の見通し（15年度と同じ） 研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15年度の反省より計画の修正・研究計画立案</li> <li>・実践研究体制の修正</li> <li>・児童の実態調査等の実施（15年度との比較）</li> <li>・総合的な学習の全体計画・年間計画の修正・作成</li> <li>・授業研究の公開</li> <li>・実践評価と研究のまとめ</li> </ul>
----------------	--

(3) 研究推進体制



指導体制

学年	学級数	算数科（全時間）	国語科（週1時間）
1	1	学級解体による少人数指導 （2～3コースの習熟度・課題別指導）	T・T指導 単元によっては学級解体の少人数指導実施
2	2		
3	1		
4	1		
5	1		
6	2		

平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

<p>(1) 基盤的学習の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算、漢字チャレンジ（朝、始業5分前）の実施により、児童の学習する習慣や漢字の読み書き、計算の学力が定着してきた。</li> <li>・学力補充・発展の時間として、ぐんぐんタイム（毎週水曜日の6校時、1年生は木曜日の5校時・各学級担任各教室で担当）を実施した。このぐんぐんタイムの活用により、計算・漢字チャレンジのプリントを直したり、理解できにくかった部分を復習したりして、児童の個々の学力の補充ができた。特に、学習内容を理解できにくい児童にとって効果があった。</li> <li>・朝読書（読書タイム）や地域の読書ボランティアグループの方による定期的な読み聞かせ（月1回、第3週）読み聞かせ講師の方や絵本作家を招いてのロングのおはなし会（7月・11月）を実施した結果、児童の読書に対する興味・関心が深くなり、児童の聞く力、読む力、集中する力、感</li> </ul>
--

動する豊かな心が徐々に育まれてきた。

(2) 教科学習の推進について

実践例 1 算数

T・Tによる一斉指導と習熟度別指導を、児童の実態に即した指導の工夫をし、一つの単元の中に組み込んだ授業実践を試みた。

- 1年 「100までの数」…………… T・T指導
  - 2年 「たし算とひき算の筆算(1)」… T・T指導と習熟度別3コース指導
  - 3年 「あまりのあるわり算」…………… T・T指導と習熟度別2コース指導
  - 4年 「折れ線グラフ」…………… T・T指導と習熟度別2コース指導
  - 5年 「小数のかけ算とわり算(2)」… T・T指導と習熟度別2コース指導
  - 6年 「体積」…………… T・T指導と習熟度別3コース指導
- ひばり 「はかってつくろう～水のかさ～」… T・T指導

新しい単元に入る前や、コース別に学習に入る前には、児童にプリントや小テスト、アンケートを実施した。その結果、児童一人一人の指導や評価をきめ細かく行うことができ、基礎的・基本的な学習内容の定着度が高まった。特に、習熟度別コースでは、少人数の中で、その児童にあった、同じ課題(コース)に向かって学習を進めていけたので、児童同士の学び合う姿勢が高まり、課題を追究するの力が徐々にについている。

実践例 2 国語 3年 「知ってもらおう自分のこと」

まず、T<sub>1</sub>が自己紹介の書き方を全体指導する時、T<sub>2</sub>は理解しにくい児童を個々に指導し、実際に児童が文を書く時や、発表の練習などの時には2名でグループ指導をした。この後、2グループをT<sub>1</sub>T<sub>2</sub>での少人数指導扱いとして指導することで個々の児童に即した指導が可能となった。また発表会はグループ内で実施したので、時間内で全員が発表できた。また大勢の前では発表しにくい児童も恥ずかしがらずに意欲的に発表したり、集中して友達の発表を最後まで聞いたりして児童の関心意欲を高める上で効果的であった。

(3) 総合的な学習(福祉教育)の推進について

福祉教育では、平成13年度から、15年度までの3年間の実践のまとめができ、本校が育てたい命を大切する心や思いやりの心が育ってきた。

(学習活動)

- ・道徳を福祉の視点から、他教科との関連性を重視して扱えるようになり、総合的な学習が充実してきた。
- ・総合的な学習の時間などで、家庭や地域の方との交流を積極的に進めることができた。異学年交流の機会を持つことができた。

(体験活動)

- ・福祉委員会を中心にした活動や、JRC活動として奉仕的な活動が実施できた。
- ・地域講師の方を指導者にした多数のクラブ活動や夏休みボランティア活動が実施できた。
- ・学校全体として、縦割り班の活動を意識した集会ができ、まとまりのある活動ができた。

児童は、地域のいろいろな人とふれあうことや様々な体験を通して、ふれあう楽しさ、いろいろな人の思いやりを感じることができた。そして、地域の人のために何かしようという気持ちを持って行動することで、仁摩の子に育てたい問題解決する力や、コミュニケーション力等の主体的に生きる力が少しずつ身についてきたと考えている。

2. 今後の課題

基礎学力づくりで、計算漢字チャレンジ、ぐんぐんタイム、読書タイム等の実践で、時間的なゆとりが無いのが実情であり、今後、無理なく継続できる効果的な実施方法を話し合い、設定していく必要がある。

T・T指導や少人数指導の実施の際の授業者間の打ち合わせが、十分でない面もあり、指導体制の工夫や、個に応じた教材の開発など、より具体的な指導に

つながるような時間の確保が必要である。  
 個に着目し、児童一人一人の考えを大切にし、それぞれの考えを出し合い、考える場面を授業者が授業の中で設定することが重要である。また児童一人一人を大切にしながら、子ども同士の学びを高め合う指導法（グループ学習、自分の考えを持ち、発表する力をつける学習など）を実践を通して探っていくことが課題である。  
 個の評価について、評価規準に基づく評価方法や活用方法についての具体的な場面で共通理解を図りながら精度を高め、今後の実践に役立てていく必要がある。  
 福祉教育研究大会後、総合的な学習の全体計画作成に着手しつつあるが、年間指導計画の修正等に、再度ねらいや方向性を確認し、児童の力をつけるよう見直したい。

#### 学力等把握のための学校としての取組

- ・学力調査（計算、漢字）  
習得状況把握のため全学年対象 年2回実施（6月・2月）
- ・学力検査（国語・算数）  
実態把握のため全学年対象 年2回実施（6月・2月）

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 教科研究（算数）
- ・研究授業公開（習熟度別指導による授業及び授業研究）  
2年6月19日、6年10月9日、会場 仁摩小学校  
大田市邇摩郡内の小中学校によびかけて実施（協力校：大田市久手小）
  - ・授業公開日（習熟度別・課題別少人数指導による算数の授業公開）  
全学年9月19日、保護者対象に授業公開（アンケート調査実施）
- 総合的な学習（生活）等
- ・島根県福祉教育研究大会での授業公開及び発表（11月20日・会場仁摩町）  
4年5年授業公開 実践発表
  - ・学習発表会（11月29日・会場仁摩小学校）  
生活科・総合的な学習での実践内容や成果発表
- 普及啓発活動
- ・学校だより、学級だより、懇談会、HP等を通して家庭地域へ実践活動紹介
  - ・研究実践集録の作成（3月の予定）

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                   13～18学級                       19～24学級  
                                   25学級以上
- 【指導体制】               少人数指導                       T・Tによる指導  
                                   一部教科担任制                       その他
- 【研究教科】               国語               社会               算数               理科  
                                   生活               音楽               図画工作       家庭  
                                   体育               その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無